令和３年度事業評価結果報告書

東京都写真美術館外部評価委員会

令和４年６月３０日

目　　次

１　座長あいさつ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１頁

２　総　評　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２頁

３　評点一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４頁

４　評価結果一覧　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　５頁

≪資料≫

東京都写真美術館外部評価委員会設置要綱・・・・・・・・　１６頁

東京都写真美術館外部評価委員会委員名簿・・・・・・・・　１７頁

座長あいさつ

このたび、東京都写真美術館外部評価委員会は、令和３年度の東京都写真美術館の運営に対する評価結果を、伊東信一郎館長に提出しました。

本委員会の目的は、東京都写真美術館の事業実績を客観的に評価し、事業効果を適正に測ると共に、改善事項の検討を進めることです。

令和３年度の評価をするにあたって、本委員会は２回開催されました。令和４年４月に開催された第一回委員会では、主に令和３年度の事業実績や令和２年度の評価についての改善事項などを確認しました。それに基づき令和４年５月の第二回委員会では 、東京都写真美術館のミッションである「存在感のある美術館運営」の具体的な事業運営項目と必要な基盤整備について、実績を５段階で評価しました。この評価結果はそれを取りまとめたものです。

新型コロナウイルス感染拡大の影響は令和３年度も引き続いており、４月２５日から５月３１日までは２度目の臨時休館を余儀なくされましたが、感染防止対策を徹底し、難しい局面を乗り越えながら、オンラインを駆使するなど活動の幅を広げることなども出来たと考えます。

本委員会では、今回の評価が東京都写真美術館の事業運営の改善 、発展の一助となるよう、各委員から寄せられた提言、課題等に着実、迅速に取り組まれるよう望みます。そして、東京都写真美術館が我が国唯一の写真・映像の総合美術館として、センター的役割を担う 「存在感のある美術館」 となるとともに、世界に向けて優れた写真・映像文化を発信する美術館となるよう大きな期待を寄せているところです。

令和４年６月３０日

東京都写真美術館外部評価委員会

座長代理　杉　田　　敦

【総評】

令和３年度の美術館運営についてであるが、「優れた写真・映像作品の計画的・効果的な収集」では、『収集の基本方針』と『写真作品収集の指針』に基づき、系統的かつ展覧会を好機とするなど計画的に、歴史的にも貴重な作品を集めており、収集した作品の制作年代も幅広い。当館の日頃の活動に対する信頼が反映され、多くの貴重な作品が寄贈されている。

「調査・研究」では、各展示の図録の論考は詳細であり充実資料となっている。また、多くの学芸員が寄稿、講演、教育、審査など研究成果の発表や普及活動において実績がある。

「展覧会」では、著名な作家の回顧展、新進作家の紹介、学術的な展示など、多方面にバランスの取れた展示となっていた。芸術選奨文部科学大臣賞新人賞をはじめ、本館の展覧会を契機とする作家の受賞が続いた。

第１４回を迎えた「恵比寿映像祭」では、冬の恒例イベントとして認知度があり、目標を上回る集客があった。タイムリーなテーマ「スペクタル後」を多面的な視点で読み解くためのコンセプトブックを刊行、鑑賞のための各種教育普及プログラムを実施、オンライン映画の配信など内容も充実し、事業としての幅も広がった。

「普及教育活動」では、感染症対策により来館できない学校の児童・生徒に対し、オンラインと出前形式のプログラムを積極的に実施した。これにより、従来の来館形式を加えて３つの実施形態が確立され、コロナ後の基本フォーマットとして運用可能となった。手話通訳付きトーク、インクルーシブ鑑賞ワークショップ、やさしい日本語ガイドなど、視・聴覚障害者や非日本語圏出身者向けのプログラムが実施され、あらゆる人が鑑賞体験を共有できるよう、多様性に配慮した。

「図書・情報の収集と公開」では、事前予約制と人数制限で感染防止対策を実施すると同時に、エフェメラなど、展覧会と連動した関係資料の展示を積極的に行っている。

「広報・宣伝」では、新たに、ニコニコ美術館動画配信、デジタルサイネージ広告、ラジオ CM などが活用され、新規層の潜在来館者にアプローチした。また、コロナ禍において来館できない人のために動画を多数制作して公開した。内容も展示風景、作家インタビューと多彩であった。

「来館者サービス」では、ミュージアムショップは、関連写真集や、オリジナルグッズの充実など期待に応えることができていた。カフェはリニューアルし、展覧会に合わせたコラボメニューの開発など、サービスが向上した。

「企業・団体等の参加促進」では、支援会員数、会費収入はやや減っているが、昨今のコロナ禍の企業経営の厳しさを考えると、よくやっていると言える。新型コロナウイルス感染症対策のために支援会員向けの講演会、交流会は中止されたが、制度発足 20 周年記念の「支援会費購入作品集」が配布された。

「ボランティアの参画推進」では、コロナ禍で困難な中、ボランティアがナビゲーターを務める対話型作品鑑賞が初めて実施され、恵比寿映像祭での教育普及活動にも中心的役割を果たしたプログラムがあるなど、活動の幅がさらに広がった。また、オンラインを駆使し定期的に連絡会、研修会を開催し、「対話型作品鑑賞」や恵比寿映像祭でのワークショップなど新規事業を立ち上げて健闘している。

「地域との連携強化」では、感染症拡大防止の観点から、休止せざるをえない活動が多かったが、恵比寿映像祭では地域のギャラリーなどと連携し、作品の展示、上映が実施された。

「インフラの改善」では、設備管理、多言語化・バリアフリー化、危機管理の各項目において、それぞれ目に見える改善がなされている。チケット日時指定予約システムの導入により、感染予防対策と利便性向上が図られた。

なお、令和３年度の定量目標については、年間観覧者数がコロナの影響を勘案した目標の２２万５千人に対して、２０万９千人の実績であったが、安全安心のために密集を避けることを優先すべきであり、やむを得ないものであったが館運営としては非常に充実していた。

令和3年度事業　評点表

評　価　項　目		評点
1 作品収集・保存事業の評価　＜過去から現在に至る写真・映像文化を未来に継承する美術館＞		**5**
(1)	優れた写真・映像作品の計画的・効果的な収集	5
(2)	的確な作品管理	5
(3)	写真・映像に関する幅広い調査・研究	4

2 事業展開の評価　＜質の高い写真・映像文化と出会う美術館＞		**5**
(1)	来館者数と集客の取組	5
(2)	質的な満足を得られる展覧会の提供	5
(3)	恵比寿映像祭	5
(4)	良質な映画の誘致と上映	5

3 教育・普及事業の評価　＜写真・映像文化の普及と新たな創造を支援する美術館＞		**5**
(1)	対象者に応じた多様なプログラムの提供	5
(2)	図書・情報の収集と公開の促進	5

4 広報事業・情報発信の評価　＜写真・映像文化の拠点として貢献する美術館＞		**5**
(1)	効果的な広報・宣伝	4
(2)	インターネット等を用いた情報発信の推進	5

5 来館者の視点、企業・団体の参加、ボランティア事業、地域連携の評価　＜開かれた美術館＞		**5**
(1)	良質なサービスの企画、提供	5
(2)	企業・団体の参加促進	4
(3)	ボランティアの参画推進	5
(4)	地域との連携強化	4

6 インフラの改善　＜ミッション達成のための必要な基盤の整備＞	**5**

※評点区分：【高】5　【やや高】4　【中】3　【やや低】2　【低】1

令和３年度事業評価結果一覧

１　作品収集・保存事業の評価　【評点５】

＜過去から現在に至る写真・映像文化を未来に継承する美術館＞

（１）優れた写真・映像作品の計画的・効果的な収集　【評点５】

≪評価の理由≫
●展覧会を好機とした収集が効果的に行われている。収集した作品の制作年代も幅広い。
●当館の日頃の活動に対する信頼が反映され、重点収集作家や関係者から質が高く厳選された作品、歴史的にも貴重な作品の寄贈があった。
●現代作家、著名作家にとどまらず、歴史的価値の高い貴重な資料も収集している。
●奈良原一高氏の作品を大量に収集しているなど、寄贈が充実していた。

≪指摘された課題・提言等≫
●現状についてあまり申し分はないが、今後は「指針」自体の再検討や、海外作家のより積極的な収集も課題となるだろう。
●作品購入点数はかなり落ち込んでおり、収蔵予算削減の影響が現れている。
●写真文化の一端を担ってきた幾多のアマチュア写真家の作品をある程度収集することはできないだろうか。
●収集方針は、現在オリジナルプリントに限定しているが、NFT の作品などへの対応は検討されているのか。

（２）的確な作品管理　【評点５】

≪評価の理由≫
●的確な作品管理がなされている。また、コロナ禍における作品管理の実際の記録を見ると、作品の貸出のみならず特別利用もそれなりに堅調に行われていることが分かる。
●館内の写真保存、地道な研究のみならず、専門機関からの視察対応、各種実習、セミナーなどを通じて技術や研究成果の社会還元を図っている。
●収蔵庫の管理、並びに展示場所の環境調査など、現状で考えうる高度な維持管理に努めている。
●科学的な根拠に基づいた作品修復・管理を行っている。

≪指摘された課題・提言等≫
●デジタルカタログなど、貸し出し誘導の仕組みなどへの対応は検討されているのか。

（３）写真・映像に関する幅広い調査・研究　　【評点４】

≪評価の理由≫
●各学芸員が極めて多忙な中でも調査・研究に係わる多様な活動を展開したことは大いに評価できる。
●学芸員のキュレーションについては、たとえば展覧会に取り上げた作家の受賞などからある程度高い水準で評価されていると認められる。
●個人においても広範にわたる活躍が見られ、講演、教育、審査などの普及活動に多くの実績がある。
●各展示の図録の論考は詳細であり充実した資料である。
●多くの学芸員が寄稿、講演会などを通じて研究成果を発表し、社会貢献している。

≪指摘された課題・提言等≫
●学芸員による地道な所蔵品の研究の成果といえるような論文があまり見当たらない。
●学芸員自身の査読付き論文が学術誌・専門誌により高い頻度で掲載されることや、学芸員の研究成果が反映された単著が出版されること、さらにはそうした成果が明確な評価の対象となることが求められる。
●調査研究に係わる予算の増額、また一定期間を調査研究に専念することの制度化も検討されるべきである。また、外部の競争的な資金の獲得なども検討すべきである。
●今後、コロナ禍では制限があった調査・研究や普及活動をさらに拡大、推進してほしい。
●写真、映像に関することであれば必ず意見を求められるような存在になるべく、さらに充実を心がけていただきたい。
●美術館主催の講演、パネルディスカッションなども、セルフ・プロデュースの観点からも考える必要がある。

２　事業展開の評価　【評点５】

＜質の高い写真・映像文化と出会う美術館＞

（１）来館者数と集客の取組　【評点５】

≪評価の理由≫
●コロナの影響を勘案した目標数には若干届かなかったが、安全安心のために密集を避けることを優先すべきであり、やむを得ない。
●休館を余儀なくされていた時期もオンラインなどで広報に努めた。
●コロナ禍の厳しい状況の中、可能な範囲での取り組みを実施した。
●数値目標云々をこの時期に検討するのは相応しくないとも思われるが、非常に充実しているという印象を受ける。

（２）質的な満足を得られる展覧会の提供　【評点５】

≪評価の理由≫
●展覧会に参加した作家がいくつかの公的な受賞対象となるなど、客観的な評価の対象となった。実際に見応えのある展覧会が揃ったといえる。
●重点収集作家の個展から調査研究に基づく独自のテーマの展覧会まで、幅の広い企画が実現された。
●著名な作家の回顧展、新進作家の紹介、学術的な展示など、多方面にバランスの取れた展示があり、それぞれの展示の内容が充実している。
●展示がきっかけとなり作家が受賞するケースがしばしばあり、これは作家個人の受賞にとどまらず、展示内容が評価されたといえる。
●コロナ禍において密を避けるため、展示室のパーテーションの配置、順路などに配慮が見られる。

≪指摘された課題・提言等≫
●「リバーシブルな未来」のような海外の関係機関との共同企画や、企画展・収蔵展の海外巡回など、コロナ後のさらなる国際展開に期待したい。

（３）恵比寿映像祭　　【評点５】

≪評価の理由≫
●冬の恒例イベントとして認知度があり、目標を上回る集客があった。
●館内、オフサイト、オンラインとさまざまな展示を組み合わせて多様なプログラムを用意した。
●３階展示室の有料化、ゲスト・キュレーターによる展示など、全体構成を一新し、目標値を上回る集客数を得た。
●タイムリーなテーマ「スペクタル後」を多面的な視点で読み解くための「コンセプトブック」を刊行、鑑賞のための各種教育普及プログラム実施、オンライン映画の毎日配信など、内容もたいへん充実し、事業としての幅も広がった。
●時宜にあったテーマのもと、地域との連携がとれたプログラムを実施した。

≪指摘された課題・提言等≫
●多年にわたり展示空間について無料としてきた事業をあえて有料に転換したことの得失や、転換の積極的な効果についての検証が、いまひとつ不十分である。
●昨今の動画の普及やコロナ禍においてオンラインが普及したことにより、今後オンラインイベントの充実、双方向サービスなどを意識した手法も考えられるのではないか。
●新しい試みにチャレンジしている印象で、周囲からもポジティヴな意見を多く耳にした。ただ新しい形態のものが含まれることで、ここまで継続してきた映像にフォーカスしたフェスティバルという印象は薄れた感じがしなくもない。どのようなキャラクターのものを維持しつつ、新しいことを取り入れていくのか、性格づけも意識する必要がある。

（４）良質な映画の誘致と上映　　【評点５】

≪評価の理由≫
●誘致事業として、当初の計画に沿って考慮されたプログラムで構成されていると認められる。
●商業ベースに乗りにくい芸術性が高い映像作品を、鑑賞するための貴重な場としての役割が果たされている。
●写真の企画展ではあまり取り上げられないドキュメンタリーや社会問題に関連したテーマの秀作を多く取り上げている。
●写真美術館ならではの個性的な映画作品を数多く誘致した。

≪指摘された課題・提言等≫
●「アート＆ヒューマン」というテーマが曖昧すぎる。必要であればその下にサブテーマなどを設けるなどして、漠然とさまざまな映像を扱っているという印象の払拭が必要ではないか。

３　教育・普及事業の評価　【評点５】

＜写真・映像文化の普及と新たな創造を支援する美術館＞

（１）対象者に応じた多様なプログラムの提供　【評点５】

≪評価の理由≫
●感染症対策により来館できない学校の児童・生徒に対し、オンラインと出前形式のプログラムを積極的に実施した。これにより、従来の来館形式を加えて３つの実施形態が確立され、コロナ後の基本フォーマットとして運用可能となった。
●手話通訳付きトーク、インクルーシブ鑑賞ワークショップ、やさしい日本語ガイドなど、視・聴覚障害者や非日本語圏出身者向けのプログラムが実施され、あらゆる人が鑑賞体験を共有できるよう、多様性に配慮した。
●アニメーションの仕組みを学ぶ新デジタル教材「マジカループ」が開発された。参加・体験型プログラムの DX 化により、全国の学校で活用できて、次世代の芸術文化への参加機会を拡大した。
●コロナ禍の困難な状況においてもやれるものは積極的に対面で実施し、またオンラインプログラムも充実している。

≪指摘された課題・提言等≫
●一般や学生向けのギャラリートークは状況を見て再開してほしい。会場が無理なら館内スタジオなどでの対話型鑑賞でもいい。
●インクルーシブな環境の実現のために積極的に取り組んでいる一方、講演会などのオンライン・プログラムの参加者は、美術館としては少し寂しいという印象も受ける。

（２）図書・情報の収集と公開の促進　【評点５】

≪評価の理由≫
●コロナ禍という苦境の中でも、多様な取り組みが行われていると評価できる。
●事前予約制と人数制限で感染防止対策を実施すると同時に、エフェメラなど、展覧会と連動した関係資料の展示を積極的に行っている。
●コロナ禍において感染防止に努めながら図書、資料の閲覧･情報提供を継続した。

≪指摘された課題・提言等≫
●著作権処理や作品データを整備し、「Tokyo Museum Collection」で所蔵作品が紹介されたが、さらなる作品画像のネット公開推進、オンライン資料の充実に期待したい。
●図書室は非常に充実した蔵書を誇っている。今後は現代写真の名作、代表作とされる写真集をキーワードにした展示などを企画してもいいのではないか。
●図書館自体の在り方が国際的にも再考されている中で、アクセスビリティなど、今一度検討する余地があるように思われる。

４　広報事業・情報発信の評価　【評点５】

＜写真・映像文化の拠点として貢献する美術館＞

（１）効果的な広報・宣伝　【評点４】

≪評価の理由≫

●ニコニコ美術館など、新たな取り組みも積極的に行うなど、努力やチャレンジが認められる。

●各メディアを熟知し、個別に柔軟で、きめ細かい対応がされている。

●新たに、ニコニコ美術館動画配信、デジタルサイネージ広告、ラジオ CM などが活用され、新規層の潜在来館者にアプローチした。

●広報誌 eyes は作家や作品の見どころなどをわかりやすく伝えており鑑賞の助けとなる。

●恵比寿駅からの動線上に視認性の高い広告物を設置し、来訪者への認知を高めた。

≪指摘された課題・提言等≫

●日本の写真作品を世界へ発信する拠点として、海外メディアへの発信を増やすなど、国際化広報スキームの構築と拡大をさらに進めてほしい。

●展示のプレス発表、内覧も毎回力を入れているが、今後は広報先としてネットの美術インフルエンサー（ユーチューバー）などもターゲットにしてはどうか。

（２）インターネット等を用いた情報発信の推進　　【評点５】

≪評価の理由≫
●ホームページの可視性・可読性の向上、コンテンツの整理など、実質的な改善が見られる。デザインの質的な改革がここに加わればなお素晴らしいと思う。
●自宅で展示を楽しむための動画配信を積極的に行った。展示風景だけではなく、作家のインタビュー、アーティストトークなど３３本もの番組を公開し、貴重なアーカイブにもなっている。
●ホームページのコンテンツが改善された。
●コロナ禍において来館できない人のために動画を多数制作して公開した。内容も展示風景、作家インタビューと多彩である。
●オンライン配信にも一定の認知がみられた。

≪指摘された課題・提言等≫
●せっかくアップした動画の視聴数が伸びない場合もあるが、いつでもアクセス可能なネット空間に、当館の信頼性の高いコンテンツがアーカイブされていることに大きな意味がある。視聴数はひとつの指標として重要ではあるが、将来にわたる視聴者たちに届き続けることを念頭に、作家、学芸員、専門家しか語れない意義深く貴重な内容を、「数」だけにとらわれずに発信し続けてほしい。
●3D インタラクティブによる展示紹介など、必要に応じて適宜取り入れてほしい。
●ツイッターのフォロワー数は頭打ちに近いと思われるため、今後は別の SNS プラットホームの活用を検討し、各特性を生かした発信方法で、主にネットから情報を得る若年層の来館を促進したい。
●英語による配信を増やし、在日外国人やインバウンド対策だけでなく、当館の国際的な認知向上に役立ててほしい。
●TOP コレクションの作家トークは作品の背景がうかがえて大変勉強になるので、もっとシリーズを増やしてほしい。
●Web サイトも充実してきていると思うが、若年層はサイトよりも SNS をより多く閲覧するという傾向があると思うので、こちらもさらに頻度を増し、いっそう動画投稿も力を入れてほしい。

５　来館者の視点、企業・団体の参加、ボランティア事業、地域連携の評価

＜開かれた美術館＞　【評点５】

（１）良質なサービスの企画・提供　【評点５】

≪評価の理由≫
●1 階カフェの新店舗「フロムトップ」が開店し、展覧会に合わせたコラボメニューの開発など、サービスが向上した。
●ミュージアムショップは美術館訪問の楽しみのひとつであり、関連写真集などの充実、オリジナルグッズなど期待に応えることができている。
●コロナ禍での入り口の検温なども応対がスムースで接客も丁寧である。
●来館者のニーズを勘案しオリジナリティの高い品ぞろえで売店を運営した。
●コロナ禍、どのような対応がなされるべきか、十分に議論されて運営されていると推測できる。

（２）企業・団体等の参加促進　【評点４】

≪評価の理由≫
●感染症対策のために支援会員向けの講演会、交流会は中止されたが、制度発足20 周年記念の「支援会費購入作品集」が配布された。
●支援会員数はやや減っているが、昨今のコロナ禍の企業経営の厳しさを考えると、これくらいの減少で食いとめているのはよくやっていると言える。
●経済環境が厳しい中で昨年と同規模の会員数を維持した。

≪指摘された課題・提言等≫
●美術館の支援会員数と会費収入がコロナ禍の前から漸減している状況に対しては、何らかの対策が必要と思われる。
●ホームページで支援会員名が明確化された。英語ページに会員名リスト部分だけでも掲載してほしい。
●コロナ禍ということもあり、拡張は望めない。そのような状況下、堅実にサポートしてくれている企業団体の可視化を行うことで、将来的な支援につながるかもしれない。今一度さまざまな角度から検討してもらいたい。

（３）ボランティアの参画推進　　【評点５】

≪評価の理由≫
●コロナの影響で、以前よりも活動の機会が限られてしまったが、ボランティアがナビゲーターを務める対話型作品鑑賞が初めて実施され、恵比寿映像祭での教育普及活動にも中心的役割を果たしたプログラムがあるなど、活動の幅がさらに広がっている。
●オンラインと対面の両方で研修機会を増やし、登録者の参加意欲や学びの意識を高めてスキル向上が図られた。
●コロナ禍でボランティアが参加するプログラムが減少し、メンバーの練度を維持するのが困難な中、オンラインを駆使し定期的に連絡会、研修会を開催し、「対話型作品鑑賞」や恵比寿映像祭でのワークショップなど新規事業を立ち上げて健闘している。
●活動機会が減少している中でもメンバーの退会が少なく、新規登録者も確保しているなどコロナ後を見据え堅実に運営している。
●感染防止に努めながらボランティアの活躍の場を提供した。
●ボランティアの活動域を広げるという点に関して、努力をされており、高く評価できる。

≪指摘された課題・提言等≫
●Zoom の導入などによりボランティアの活動の質的な変化が生じていることはよく理解できるが、美術館活動に NPO などを含めた外部の個人・団体との協働が、もう少し目に見える形で定着していくべきと考える。
●今後も、美術館におけるボランティアのあり方そのものの雛形を開発するような意気込みで取り組んでもらいたい。

（４）地域との連携強化　　【評点４】

≪評価の理由≫
●あ・ら・かるちゃー文化施設運営協議会を中心とする地道な活動の実際は、一定の評価すべき内容と考える。
●感染症拡大防止の観点から、休止せざるをえない活動が多かったが、恵比寿映像祭では地域のギャラリーなどと連携し、作品の展示、上映が実施された。
●コロナ禍の状況で開催中止に追い込まれた活動もあったことはやむを得ないと考える。

≪指摘された課題・提言等≫
●地域に根ざした活動を重視する美術館というイメージが定着するには到っていないので、いっそうの取り組み強化が求められる。
●ガーデンプレースのリニューアルも進み、with コロナで近隣への集客が戻ることが考えられるので、その恩恵を受けるべくさらに改善を目指してください。

６．インフラの改善　【評点５】

＜ミッション達成のための必要な基盤の整備＞

≪評価の理由≫
●設備管理、多言語化・バリアフリー化、危機管理の各項目において、それぞれ目に見える改善がなされている。
●職員、スタッフ、来館者の感染防止対策徹底により、館内におけるクラスターの発生が防止された。
●チケット日時指定予約システムの導入により、感染予防対策と利便性向上が図られた。
●各展覧会のレイアウト変更によって避難経路が変わるため、展覧会ごとの避難訓練が継続実施されている。万一の際の最適な避難行動が常に更新され、現場に徹底されている。
●恵比寿駅からの導線上にある看板なども改善されて迷うことなく誘導できている。
●館内のバリアフリー化もハード、ソフト両面で進展し、多言語化も促進している。
●来館者の利便性向上を意識した改善を着実に実施した。

≪指摘された課題・提言等≫
●目黒駅からのアクセスの誘導も再検討してよいのかもしれない。

資　　料

東京都写真美術館外部評価委員会設置要綱

（設　置）

第１　東京都写真美術館（以下「美術館」という。）の事業実績を客観的に評価し、事業効果を適正に測るとともに、改善事項の検討を進めるため、館長の私的諮問機関として東京都写真美術館外部評価委員会（以下「評価委員会」という。）を設置する。

（所掌事項）

第２　評価委員会は、次の事項について審議し館長に助言を行う。

（１）　美術館が掲げる定性目標、定量目標に基づく美術館事業の外部評価報告書に関すること。

（２）　その他、館長が必要と認めた事項に関すること。

（構　成）

第３　評価委員会は、学識経験等を有する者の中から、館長が依頼する委員６人以内で構成する。

（任　期）

第４　委員の任期は、３年とし、再任を妨げない。

（座長及び副座長）

第５　評価委員会に、座長及び副座長を置く。

２　座長及び副座長は、委員の互選により定める。

３　座長は、委員会を主宰し、会務を総理する。

４　副座長は、座長を補佐し、座長に事故があるときには、その職務を代理する。

（招　集）

第６　評価委員会は、館長が招集する。

２　館長は、必要に応じて、委員以外の関係者の出席を求めることができる。

（会議及び議事）

第７　委員会の開催及び議事は次のとおりとする。

（１）委員会は、原則として、委員の過半数が出席しなければ、会議を開催することができない。

（２）委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。

（３）館長は、大規模災害等により委員の出席が困難である場合は、書面により過半数の委員から意見を徴することにより、委員会の開催に代えることができる。

（謝金の支出）

第８　公益財団法人東京都歴史文化財団委員会等謝礼基準に基づき、委員に謝金を支出する。

（庶　務）

第９　評価委員会の庶務は、東京都写真美術館管理課において処理する。

（補　則）

第１０　この要綱に定めるもののほか、評価委員会に必要な事項は、館長が定める。

附則　この要綱は、平成１６年４月１日から施行する。

附則　この要綱は、令和２年４月１日から施行する。

東京都写真美術館外部評価委員会委員名簿　（令和3年4月～）

（敬称略：順不同）

	氏　名	職　業・役　職	備　考
座長	柏木博	武蔵野美術大学名誉教授	美術館・博物館 経営研究者 （～令和3年12月）
副座長	杉田敦	女子美術大学芸術学部教授	美術館・博物館 経営研究者
	倉石信乃	明治大学大学院理工学研究科教授	美術館・博物館 経営研究者
	片岡英子	ニューズウィーク日本版副編集長、フォト・ディレクター	マスコミ関係者
	服部一人	日本大学芸術学部写真学科教授	写真美術館ボランティア
	大貫一弥	サッポロ不動産開発株式会社　恵比寿事業本部 営業部部長	地域連携 （令和3年7月～令和4年3月）
	川村浩一	サッポロ不動産開発株式会社　取締役執行役員　兼 恵比寿事業本部長	地域連携 （令和4年4月～）